

多摩地域ごみ実態調査 2019(平成31・令和元)年度統計を発行しました

当調査会では毎年度、多摩地域30市町村のごみ処理の実績をまとめ、「多摩地域ごみ実態調査」として発行しています。このたび、2019(平成31・令和元)年度の統計ができあがりましたので、概要をご紹介します。

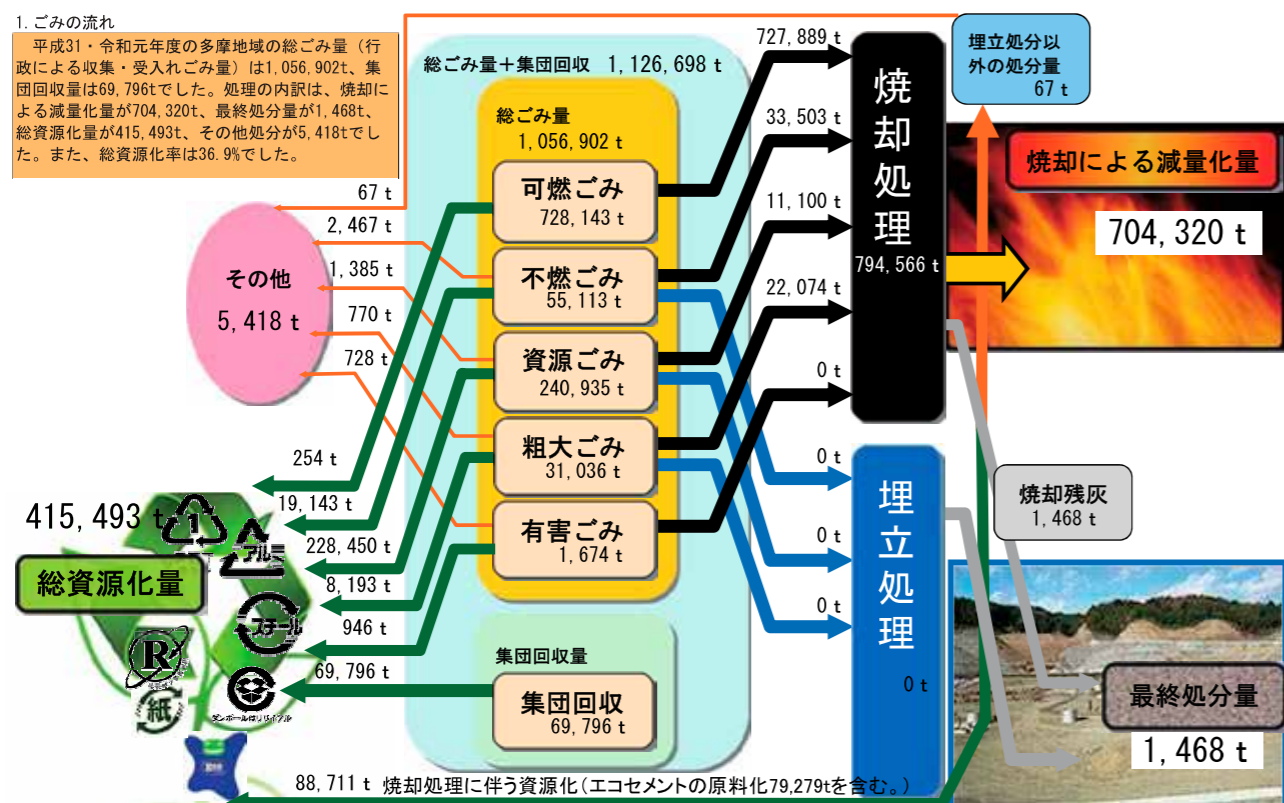
「多摩地域ごみ実態調査 2019(平成31・令和元)年度統計」の報告書は、当調査会のホームページ(<https://www.tama-100.or.jp/>)からダウンロードできます。

- ・「多摩地域ごみ実態調査 2019(平成31・令和元)年度統計」
- ・「多摩地域ごみ実態調査 2019(平成31・令和元)年度統計 概要版」

なお、以前の報告書(平成21年度～平成30年度統計)についても、ダウンロードできます。ぜひご活用ください。



▶ 2019(平成31・令和元)年度 多摩地域30市町村のごみ処理の実績



※ 数値データは、その算出に当たり、小数点以下を四捨五入しているため、各内訳数値の合計とその合計欄の数値が一致しない場合があります。

総ごみ量

2019(平成31・令和元)年度の総ごみ量(家庭ごみ及び事業系ごみ)は1,056,902tとなり、前年度に比べて1.0%増加しました。主な内訳を見ると、収集ごみ量(主に家庭ごみの量)は890,823tで前年度に比べて0.3%増加し、持込ごみ量(主に事業系ごみの量)は166,079tで前年度に比べて3.8%増加しました。

1人1日あたりのごみ量

1人1日当たりのごみ量(集団回収[※]量を含む)は726gとなり、前年度に比べて横ばいでした。

※町会・自治会等の地域の団体が、紙類やびん等の資源物を回収して直接回収業者に引き渡す自主的な資源回収

ごみの資源化

2019(平成31・令和元)年度の総資源化率(リサイクル率)は36.9%で前年度に比べて0.4ポイント減少し、ごみ資源化率は32.7%で前年度に比べて0.2ポイント減少しました。

◆ ごみの資源化の状況を示す総資源化率(リサイクル率)とごみ資源化率は、次の計算式で求めています。

$$\text{総資源化率(リサイクル率)} = \frac{\text{資源ごみからの資源化量}^{(\ast 1)} + \text{収集後資源化量}^{(\ast 2)} + \text{集団回収量}}{\text{総ごみ量} + \text{集団回収量}}$$

$$\text{ごみ資源化率} = \frac{\text{資源ごみからの資源化量} + \text{収集後資源化量}}{\text{総ごみ量}}$$

※1 分別収集や拠点回収を行った資源ごみ(缶、びん、ペットボトル等)の量

※2 中間処理施設において、不燃ごみや粗大ごみ等から選別された資源物の量とエコセメントの原料に使用した焼却灰の量

最終処分量

最終処分量は1,468tとなり、前年度に比べて4.2%増加しました。内訳を見ると、焼却処理施設からの焼却残灰が1,468tで前年度に比べて4.2%増加、埋立処理された不燃残さ(不燃ごみ等を破碎選別したもの)が平成30年度から2年続けて0tとなりました。

ハロウィンジャンボ

2つのジャンボで **ラッキーハロウィン!**

当せんのチャンス広がる

5億円 (1等前後賞合わせて5億円, 1等3億円, 前後賞各1億円)

1千万円 (1等1,000万円)

インターネット購入はこちら!

宝くじ公式サイト <https://www.takarakuji-official.jp/>

この宝くじの収益金は区市町村の明るいまちづくりや環境対策、高齢化対策など地域住民の福祉向上のために使われます。

9月23日(水) 同時発売

発売期間/9月23日(水)~10月20日(火) 抽せん日/10月27日(火)

各1枚 300円